

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	あいちビジネス専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	医療秘書科	夜・通信	360 単位時間	160 単位時間	
	診療情報管理士科	夜・通信	792 単位時間	240 単位時間	
	医療情報管理科（医療IT科）	夜・通信	432 単位時間	160 単位時間	
	医療事務科	夜・通信	216 単位時間	80 単位時間	
	医事総合研究科	夜・通信	—	—	
	医薬ビジネス科	夜・通信	288 単位時間	160 単位時間	
	販売ビジネス科	夜・通信	288 単位時間	160 単位時間	
	ITビジネス科	夜・通信	396 単位時間	160 単位時間	
	国際ビジネス科	夜・通信	216 単位時間	160 単位時間	
(備考) 医療情報管理科については、令和3年4月入学生より医療IT科に科名変更。 医事総合研究科については、令和3年度末で廃止を予定しているため学生募集を行っていない。また1年課程であるため在籍者は0名であり授業を開講していない。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.aichi-bc.jp/assessment/pdf/list.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	あいちビジネス専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人電波学園公式 Web サイト「事業報告書」 http://www.denpa.jp

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	R1. 10. 1～ R5. 09. 30	労務・法務担当
非常勤	税理士	R1. 10. 1～ R5. 09. 30	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	あいちビジネス専門学校
設置者名	学校法人電波学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員および学科教員を中心に授業計画(シラバス)作成担当を決定し、授業計画(シラバス)案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にす。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。</p> <p>4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画(シラバス)の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画(シラバス)の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画(シラバス)の内容について授業担当教員より説明するとともに本校ホームページへ掲載。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.aichi-bc.jp/assessment/pdf/plan.pdf
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。</p> <p>演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。</p> <p>各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評定は60点とする。</p> <p>前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均点を評定の成績とする。1年を超えて学習する学科目については、学年度毎に評価を行う。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 全科目の評定点数(100点満点)の合計点を科目数で除し、平均点を算出する。この平均点をもとに学科・学年ごとの成績順位を決定する。学生に配布する成績一覧に順位も記載する。 学科・学年ごとに度数分布表を作成し成績の分布を明らかにする。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.aichi-bc.jp/assessment/pdf/evaluation.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び品行を斟酌して認めると定めている。 2年課程以上の学科については、進級時に進級審査会議を実施し進級の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって進級を認めている。 卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。 進級および卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級および卒業の成績が各科目のいずれもが60点以上であること。 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。 <p>欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日数に加える。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.aichi-bc.jp/assessment/pdf/certification.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	あいちビジネス専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp
収支計算書又は損益計算書	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp
財産目録	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp
事業報告書	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp
監事による監査報告（書）	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	医療秘書科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2160 単位時間	900 単位時間	828 単位時間	432 単位時間		
			2160 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		98人	0人	10人	8人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員および学科教員を中心に授業計画（シラバス）作成担当を決定し、授業計画（シラバス）案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にす。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。</p> <p>次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。</p> <p>4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画（シラバス）の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。</p> <p>新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画（シラバス）の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画（シラバス）の内容について授業担当教員より説明する。</p>
成績評価の基準・方法

(概要)
 学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。
 演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。
 各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評定は60点とする。
 前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均点を評定の成績とする。1年を超えて学習する学科目については、学年度毎に評価を行う。

卒業・進級の認定基準

(概要)
 学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び性行を斟酌して認めると定めている。
 2年課程以上の学科については、進級時に進級審査会議を実施し進級の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって進級を認めている。
 卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。
 進級および卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である
 ・進級および卒業の成績が各学科目のいずれもが60点以上であること。
 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。
 欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日数に加える。

学修支援等

(概要)
 クラス担任制であり欠席者への個人連絡、家庭連絡も行っている。入学時には新入生ガイダンスをカレッジごとに実施するとともに、個人面談を実施。年1回保護者会を実施。検定試験等に対する補習、補講、対策講座を随時実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
51人 (100%)	0人 (0.0%)	50人 (98.0%)	1人 (2.0%)

(主な就職、業界等)

病院、診療所

(就職指導内容)

医療機関関係者を招いて進路指導会の実施、担任・就職担当による個別指導

(主な学修成果（資格・検定等）)

医師会認定医療秘書：合格率81.0%、医療秘書技能検定：合格率86.0%

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
106人	8人	7.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気療養、学校生活学業不適合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席状況に応じた個人面談実施、学科会議による情報共有、保護者会実施、家庭との連絡、スクールカウンセラーとの面談実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	診療情報管理士科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3240 単位時間	1296 単位時間	1512 単位時間	432 単位時間	単位時間	単位時間
			3240 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		98人	1人	10人	9人	19人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員および学科教員を中心に授業計画(シラバス)作成担当を決定し、授業計画(シラバス)案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にする。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。 次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。 4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画(シラバス)の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。 新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画(シラバス)の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画(シラバス)の内容について授業担当教員より説明する。
成績評価の基準・方法
(概要) 学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。 演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席

<p>点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。</p> <p>各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評価は60点とする。</p> <p>前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均点を評定の成績とする。1年を超えて学習する学科目については、学年度毎に評価を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び品行を斟酌して認めると定めている。</p> <p>2年課程以上の学科については、進級時に進級審査会議を実施し進級の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって進級を認めている。</p> <p>卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。</p> <p>進級および卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級および卒業の成績が各学科目のいずれもが60点以上であること。 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。 <p>欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日数に加える。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制であり欠席者への個人連絡、家庭連絡も行っている。入学時には新入生ガイダンスをカレッジごとに行い、個人面談を実施。年1回保護者会を実施。検定試験等に対する補習、補講、対策講座を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 医療機関関係者を招いて進路指導会の実施、担任・就職担当による個別指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 医師会認定医療秘書：合格率88.6%、医療秘書技能検定：合格率88.6% 電子カルテ実技検定：合格率97.1%			
(備考) (任意記載事項)			

※平成31年4月新設学科のため、主な就職、業界等は未記入。

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57人	1人	1.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席状況に応じた個人面談実施、学科会議による情報共有、保護者会実施、家庭との連絡、スクールカウンセラーとの面談実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	医療情報管理科 (医療IT科)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2160 単位時間	828 単位時間	900 単位時間	432 単位時間	単位時間	単位時間
			2160 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	13人	0人	10人	6人	16人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員および学科教員を中心に授業計画(シラバス)作成担当を決定し、授業計画(シラバス)案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にする。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。 次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。 4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画(シラバス)の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。 新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画(シラバス)の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画(シラバス)の内容について授業担当教員より説明する。
成績評価の基準・方法
(概要) 学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。 演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。 各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題

<p>で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評定は60点とする。前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均点を評定の成績とする。1年を超えて学習する学科目については、学年度毎に評価を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び性行を斟酌して認めると定めている。</p> <p>2年課程以上の学科については、進級時に進級審査会議を実施し進級の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって進級を認めている。</p> <p>卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。</p> <p>進級および卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級および卒業の成績が各学科目のいずれもが60点以上であること。 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。 <p>欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日数に加える。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制であり欠席者への個人連絡、家庭連絡も行っている。入学時には新入生ガイダンスをカレッジごとにも実施するとともに、個人面談を実施。年1回保護者会を実施。検定試験等に対する補習、補講、対策講座を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	0人 (0.0%)	14人 (100.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所、医療系IT企業			
(就職指導内容) 医療機関関係者を招いて進路指導会の実施、担任・就職担当による個別指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 電子カルテ実技検定：合格率78.6%、医事コンピュータ技能検定：合格率64.3%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26人	0人	0.0%

(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席状況に応じた個人面談実施、学科会議による情報共有、保護者会実施、家庭との連絡、スクールカウンセラーとの面談実施

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	医療事務科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	1080 単位時間	396 単位時間	468 単位時間	216 単位時間	単位時間	単位時間
			1080 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		17人	0人	4人	5人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員および学科教員を中心に授業計画（シラバス）作成担当を決定し、授業計画（シラバス）案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にする。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。</p> <p>次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。</p> <p>4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画（シラバス）の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。</p> <p>新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画（シラバス）の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画（シラバス）の内容について授業担当教員より説明する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。</p> <p>演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。</p> <p>各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評定は60点とする。</p> <p>前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均</p>

点を評定の成績とする。
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び性行を斟酌して認めると定めている。</p> <p>卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。</p> <p>卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業の成績が各学科目のいずれもが60点以上であること。 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。 <p>欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日数に加える。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制であり欠席者への個人連絡、家庭連絡も行っている。入学時には新入生ガイダンスをカレッジごとに行い、個人面談を実施。年1回保護者会を実施。検定試験等に対する補習、補講、対策講座を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0.0%)	10人 (83.3%)	2人 (16.7%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所			
(就職指導内容) 医療機関関係者を招いて進路指導会の実施、担任・就職担当による個別指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 秘書技能検定：合格率62.5%、サービス接客検定：合格率71.4%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席状況に応じた個人面談実施、学科会議による情報共有、保護者会実施、家庭との連絡、スクールカウンセラーとの面談実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	医事総合研究科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	1080 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			0 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		0人	0人	0人	0人	0人	

医事総合研究科については、令和3年度末で廃止を予定しているため学生募集を行っていない。また1年課程であるため在籍者は0名であり授業を開講していない。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員および学科教員を中心に授業計画（シラバス）作成担当を決定し、授業計画（シラバス）案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にする。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。</p> <p>次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。</p> <p>4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画（シラバス）の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画（シラバス）の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画（シラバス）の内容について授業担当教員より説明する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。</p> <p>演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。</p> <p>各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評定は60点とする。</p> <p>前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均点を評定の成績とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び性行を斟酌して認めると定めている。</p>

卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。 卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である ・卒業の成績が各学科目のいずれもが60点以上であること。 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。 欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日数に加える。
学修支援等
(概要)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	0人 (0.0%)	19人 (86.4%)	3人 (13.6%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所			
(就職指導内容) 担任・就職担当による個別指導			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席状況に応じた個人面談実施、学科会議による情報共有、保護者会実施、家庭との連絡、スクールカウンセラーとの面談実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	医薬ビジネス科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技

2年	昼間	2160 単位時間	828	792	900	単位時間	単位時間
			2520 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	45人	0人	7人	9人	16人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員および学科教員を中心に授業計画(シラバス)作成担当を決定し、授業計画(シラバス)案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にする。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。</p> <p>次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。</p> <p>4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画(シラバス)の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画(シラバス)の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画(シラバス)の内容について授業担当教員より説明する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。</p> <p>演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。</p> <p>各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評定は60点とする。</p> <p>前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均点を評定の成績とする。1年を超えて学習する学科目については、学年度毎に評価を行う。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び性行を斟酌して認めると定めている。</p> <p>2年課程以上の学科については、進級時に進級審査会議を実施し進級の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって進級を認めている。</p> <p>卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。</p> <p>進級および卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級および卒業の成績が各学科目のいずれもが60点以上であること。 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。 <p>欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日</p>

数に加える。
学修支援等
(概要) クラス担任制であり欠席者への個人連絡、家庭連絡も行っている。入学時には新入生ガイダンスをカレッジごとに行い、個人面談を実施。年1回保護者会を実施。検定試験等に対する補習、補講、対策講座を随時実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	0人 (0.0%)	14人 (82.4%)	3人 (17.6%)
(主な就職、業界等) ドラッグストア、医薬系企業			
(就職指導内容) 就職事前指導会の実施、担任・就職担当による個別指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 登録販売者：合格率 72.8%、調剤報酬請求事務専門士：合格率 62.5%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42人	1人	2.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席状況に応じた個人面談実施、学科会議による情報共有、保護者会実施、家庭との連絡、スクールカウンセラーとの面談実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	販売ビジネス科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2160 単位時間	900 単位時間	828 単位時間	720 単位時間		
			2448 単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	26人	0人	6人	13人	19人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員および学科教員を中心に授業計画（シラバス）作成担当を決定し、授業計画（シラバス）案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にする。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。</p> <p>次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。</p> <p>4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画（シラバス）の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画（シラバス）の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画（シラバス）の内容について授業担当教員より説明する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。</p> <p>演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。</p> <p>各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評定は60点とする。</p> <p>前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均点を評定の成績とする。1年を超えて学習する学科目については、学年度毎に評価を行う。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び性行を斟酌して認めると定めている。</p> <p>2年課程以上の学科については、進級時に進級審査会議を実施し進級の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって進級を認めている。</p> <p>卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。</p> <p>進級および卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級および卒業の成績が各学科目のいずれもが60点以上であること。 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。 <p>欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日数に加える。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制であり欠席者への個人連絡、家庭連絡も行っている。入学時には新入生ガイダンスをカレッジごとに実施するとともに、個人面談を実施。年1回保護者会を実施。検定試験等に対する補習、補講、対策講座を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13人 (100%)	1人 (7.7%)	9人 (69.2%)	3人 (23.1%)
(主な就職、業界等) 販売系企業			
(就職指導内容) 就職事前指導会の実施、担任・就職担当による個別指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) サービス接遇実務技能検定：合格率76.5%、准サービス介助士：合格率100%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29人	1人	3.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席状況に応じた個人面談実施、学科会議による情報共有、保護者会実施、家庭との連絡、スクールカウンセラーとの面談実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	ITビジネス科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2160 単位時間	1404 単位時間	144 単位時間	1044 単位時間	単位時間	単位時間
			2592 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	72人	2人	8人	6人	14人		

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p>
<p>（概要） 資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員および学科教員を中心に授業計画（シラバス）作成担当を決定し、授業計画（シラバス）案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にする。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。 次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。 4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画（シラバス）の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画（シラバス）の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画（シラバス）の内容について授業担当教員より説明する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p>
<p>（概要） 学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。 演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。 各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評定は60点とする。 前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均点を評定の成績とする。1年を超えて学習する学科目については、学年度毎に評価を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>（概要） 学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び性行を斟酌して認めると定めている。 2年課程以上の学科については、進級時に進級審査会議を実施し進級の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって進級を認めている。 卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。 進級および卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である ・進級および卒業の成績が各学科目のいずれもが60点以上であること。 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。 欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日数に加える。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>（概要） クラス担任制であり欠席者への個人連絡、家庭連絡も行っている。入学時には新入生ガイダンスをカレッジごとにも実施するとともに、個人面談を実施。年1回保護者会を実施。検定試験等に対する補習、補講、対策講座を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
51人 (100%)	2人 (3.9%)	43人 (84.3%)	6人 (11.8%)
(主な就職、業界等) IT関連企業、一般企業			
(就職指導内容) 就職事前指導会の実施、担任・就職担当による個別指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) Microsoft Office Specialist：合格率98.0%、全経簿記能力検定：合格率76.1%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
90人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席状況に応じた個人面談実施、学科会議による情報共有、保護者会実施、家庭との連絡、スクールカウンセラーとの面談実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	国際ビジネス科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2160 単位時間	792 単位時間	1080 単位時間	288 単位時間	単位時間	単位時間
		2160 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	158人	158人	4人	13人	17人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 資格試験の受験状況、教育課程編成委員会の意見、企業、病院、関係団体などの意見を参考に各学科到達目標、資格試験の受験時期などの見直しを行う。教育課程表をもとに、次年度の開講予定科目を決定し、授業担当教員案を作成。授業担当予定教員お

<p>よび学科教員を中心に授業計画（シラバス）作成担当を決定し、授業計画（シラバス）案を作成。計画案作成にあたっては教育課程編成委員会等外部意見や学生授業アンケート結果を参考にする。計画案を学科長で取りまとめ、学科教員間でチェック、修正を行う。</p> <p>次年度授業担当者が決定した段階でも、チェック、修正を行う。</p> <p>4月入学式前に行われている講師会議で外部講師、各学科教員により授業計画（シラバス）の確認を行い、修正点があれば変更する。学科長、教務で最終チェックを行う。</p> <p>新入生については、入学式後の新入生ガイダンスにおいて授業計画（シラバス）の概要について説明。各学科目、授業開始時に、授業計画（シラバス）の内容について授業担当教員より説明する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>学科目ごとに100点満点として評価する。ただし、定期試験については、20点を出席点として評価し、試験成績は80点満点で評価する。追試験については出席点を含めず試験成績を100点満点として評価する。</p> <p>演習科目・実習科目については、期末試験にかえて次により評価する。20点を出席点として評価し、平常の授業時間内における、筆記試験、実技実習、作品・課題などの評価点を80点満点とする。追試験については追課題などで100点満点として評価する。与えられた課題未提出の場合は、欠点扱いとなる場合がある。</p> <p>各学科目とも100点満点で60点以上を合格とし、不合格の場合は追試験、追課題で60点以上の取得をもって合格とする。ただしその場合の評定は60点とする。</p> <p>前期のみまたは後期のみ開講される学科目については、それぞれの点数を評定の成績とし、1年を通して実施される学科目については、前期末および学年末の点数の平均点を評定の成績とする。1年を超えて学習する学科目については、学年度毎に評価を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>学則に卒業は、所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び品行を斟酌して認めると定めている。</p> <p>2年課程以上の学科については、進級時に進級審査会議を実施し進級の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって進級を認めている。</p> <p>卒業時には、卒業審査会議を実施し卒業の認定に値するか教職員で審議を行い校長に上申する。校長の決定をもって卒業を認めている。</p> <p>進級および卒業の認定は次の各条件を充足するものであることが条件である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級および卒業の成績が各学科目のいずれもが60点以上であること。 ・その学年度を通じて出席すべき日数の5分の4以上を出席していること。 <p>欠席日数の算出は欠課6時間、遅刻12回をそれぞれ欠席1日として換算し、欠席日数に加える。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任制であり欠席者への個人連絡、家庭連絡も行っている。入学時には新入生ガイダンスをカレッジごとにも実施するとともに、個人面談を実施。年1回保護者会を実施。検定試験等に対する補習、補講、対策講座を随時実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

36人 (100%)	2人 (5.6%)	26人 (72.2%)	8人 (22.2%)
(主な就職、業界等) 飲食業、一般企業			
(就職指導内容) 就職事前指導会の実施、担任・就職担当による個別指導、留学生を対象とした就職指導会・企業説明会の実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) 社会人常識マナー検定 Japan Basic : 94.4%、情報処理技能検定表計算 : 合格率 100%、 文書デザイン検定 : 合格率 100.0%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
92人	2人	2.2%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情、病気療養		
(中退防止・中退者支援のための取組) 出席状況に応じた個人面談実施、学科会議による情報共有、出身日本語学校との情報共有		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
医療秘書科	200,000 円	818,000 円	0 円	
診療情報管理士科	200,000 円	798,000 円	0 円	
医療情報管理科 (医療 I T 科)	200,000 円	798,000 円	0 円	医療情報管理科については、令和3年4月入学生より医療 I T 科に科名変更。
医療事務科	180,000 円	734,000 円	0 円	
医事総合研究科	180,000 円	464,000 円	0 円	医事総合研究科については、令和3年度末で廃止を予定しているため学生募集を行っていない。また1年課程であるため在籍者数は0名である。
医薬ビジネス科	200,000 円	778,000 円	0 円	
販売ビジネス科	200,000 円	778,000 円	0 円	
I T ビジネス科	200,000 円	818,000 円	0 円	
国際ビジネス科	200,000 円	728,000 円	0 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.aichi-bc.jp/assessment/index.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>社会から求められる人材を育成し社会経済発展に寄与できる学校となるため、学校内部に関する点検、評価、改善が不可欠である。本校の教育理念・学校運営・教育活動等について行った学校自己評価を基に、学校関係者による評価を実施し、より適切に学校運営がなされると共に社会から必要とされる学校とすることを基本方針とし、年2回開催している。主な評価項目は次の通りである。</p> <p>(1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学修成果 (5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入れ募集 (8) 財務 (9) 法令等の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献 (11) 国際交流</p> <p>評価委員の定数は5名から8名を標準とし、本校の教育に関係する業界団体・企業等の関係者などに委嘱している。</p> <p>評価結果および改善意見をもとに、学校自己点検評価委員会において年度末までに本校としての今後の具体的な改善方策を策定し、改善にむけた取り組みを行っている。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別

日本チェーンドラッグストア協会	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	業界団体
日本医師事務作業補助研究会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	業界団体
株式会社 コネクティボ	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	企業等委員
株式会社 日本リテイル研究所	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	企業等委員
ポイント・フォワード株式会社	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	企業等委員
医療法人 贈恩会	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	企業等委員
医療法人徳洲会 名古屋徳洲会総合病院	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.aichi-bc.jp/assessment/index.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.aichi-bc.jp/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	あいちビジネス専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		37人	32人	37人
内 訳	第Ⅰ区分	17人	17人	
	第Ⅱ区分	13人	12人	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				37人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	—
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	—
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	—
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	—
計	0人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	—
GPA等が下位4分の1	—	—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	—
計	—	—	—

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。